

3 自転車安全教育検討部会の審議経過報告について



1. 部会委員（五十音順・敬称略）

中井 宏【部会長】

（大阪大学大学院人間科学研究科 准教授）

福嶋 祐貴

（京都教育大学 大学院連合教職実践研究科 准教授）

吉田 長裕

（大阪公立大学大学院工学研究科 准教授）

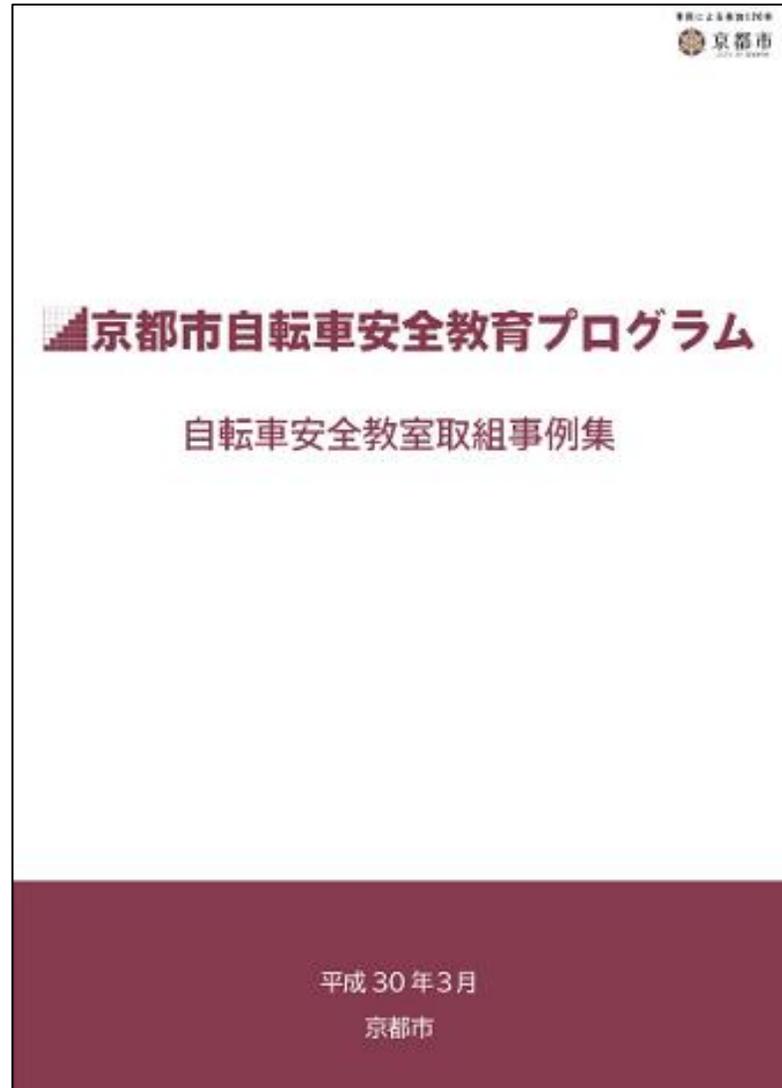
（オブザーバー）

京都府警察 交通部 交通企画課

京都市教育委員会事務局 体育健康教育室



2. 京都市自転車安全教育プログラム



2018（平成30）年3月に策定

- ・子どもから高齢者までのライフステージ別に自転車安全教室等で教える内容を取りまとめた
- ・このプログラムに基づき、専門家、京都府警察、教育機関等との連携の下、ライフステージ別に体系立てた自転車安全教育を実施



3. 自転車安全教育をとりまく現状

【国全体の動き】警察庁が、令和5年度に「良好な自転車交通秩序を実現させるための方策に関する有識者検討会」を実施。検討の結果、次の視点で報告書が取りまとめられた。

検討結果

交通安全教育

- ◆ 自転車利用のニーズが高まっている昨今の情勢を踏まえると、リソースの制約上、警察のみで自転車に係る安全教育を実施することは困難であることから、警察を中心として官民連携を強化していく。
- ◆ あわせて、警察が交通安全教育の需要と供給を的確に捉え、両者のマッチングを促進し、交通安全教育の体系を充実させる。
- ◆ 官民連携の拠点となる官民協議会を構築し、ライフステージごとに提供すべき交通安全教育の指針を示す安全教育ガイドラインを策定し、実施主体によらず教育の質を担保する。
- ◆ 「自転車安全教育」認定制度を構築し、都道府県警察が民間事業者の自転車に係る安全教育を認定する（供給主体の「見える化」）。

ライフステージに応じた安全教育の充実化

違反処理

- ◆ 自転車を交通反則通告制度の対象とした上で、現認可能・明白・定型的な違反行為を反則行為とする。
- ◆ 制度の対象年齢は16歳以上とする。
- ◆ 反則行為となる信号無視、指定場所一時不停止、通行区分違反（右側通行、歩道通行等）等については、特に悪質かつ危険性の高い違反態様に限って青切符による取締りを行う。
- ◆ それ以外の場合については、違反者に将来の運転行動の改善を促す指導警告にとどめる。
- ◆ 酒酔い運転、酒気帯び運転、妨害運転等の反社会性・危険性の高い違反行為は反則行為に含めないこととする。それらのうち、赤切符の対象となる違反行為については、引き続き赤切符で処理する。

違反者の行動改善に向けた指導取締りの推進

交通規制

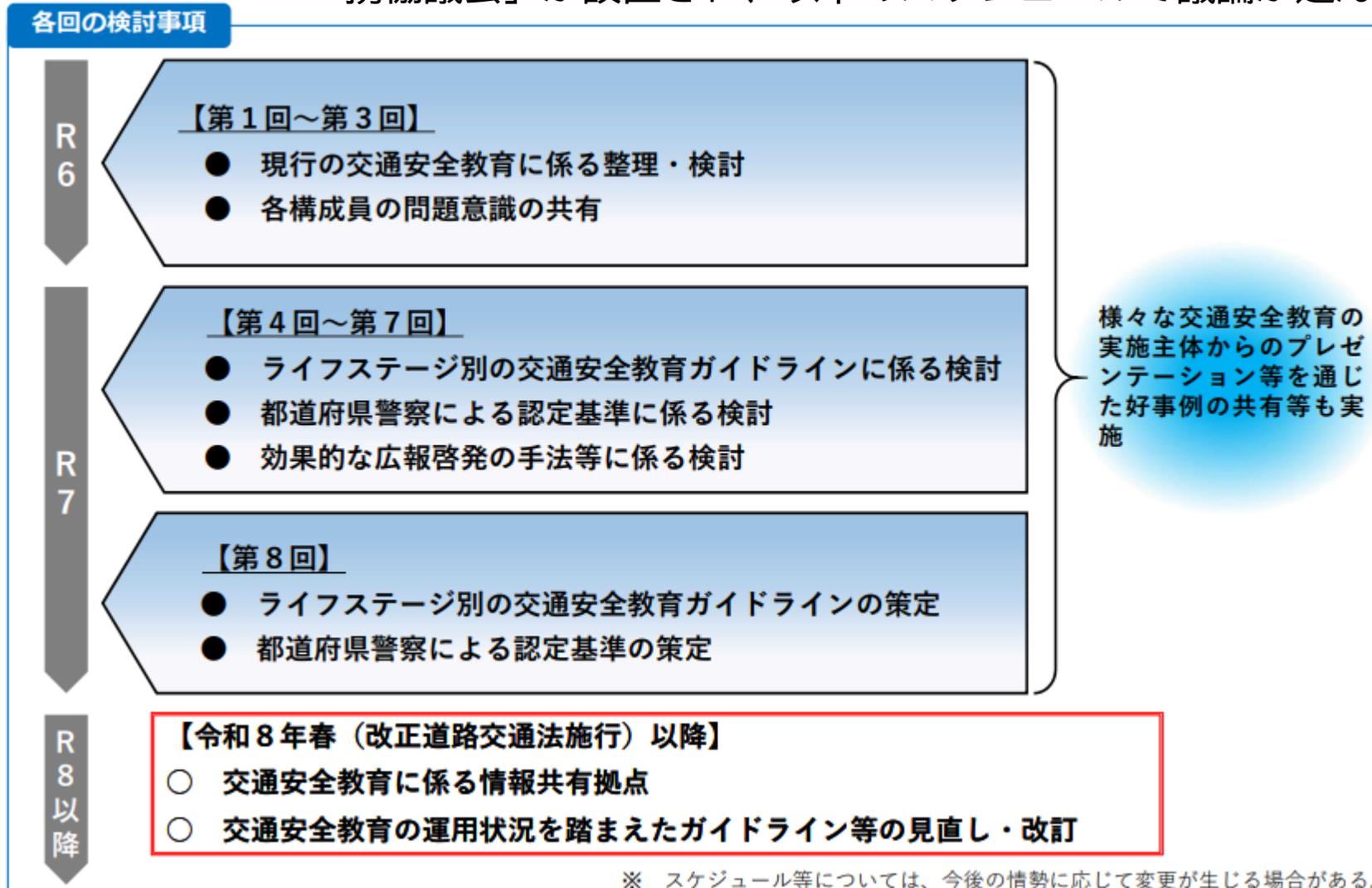
- ◆ 自転車が安全に車道を通行することができる環境を創出するため、国内外の先行事例も参考に、「全ての交通主体がお互いに思いやり、共に道路を安全・快適に利用する」という理念を国民に浸透させるためのキャンペーンを展開するほか、車道を通行する自転車の保護に関する法制上の措置を講ずる。
- ◆ 自転車通行空間における違法駐車対策を推進するため、取締りに係るガイドラインの見直し、警察の取組の周知・理解に向けた広報啓発活動を行う。
- ◆ 他方で、駐車需要を考慮した対応も必要であるところ、関係者とも連携して需要に応じた駐車スペースを確保することで、路上駐車等により自転車が通行しづらい状況を緩和する。

自転車が安全・安心に通行できる環境の整備



3. 自転車安全教育をとりまく現状

【国全体の動き】 報告書に基づき、警察庁によって「自転車の交通安全教育の充実化に向けた官民連携協議会」が設置され、以下のスケジュールで議論が進んでいる。



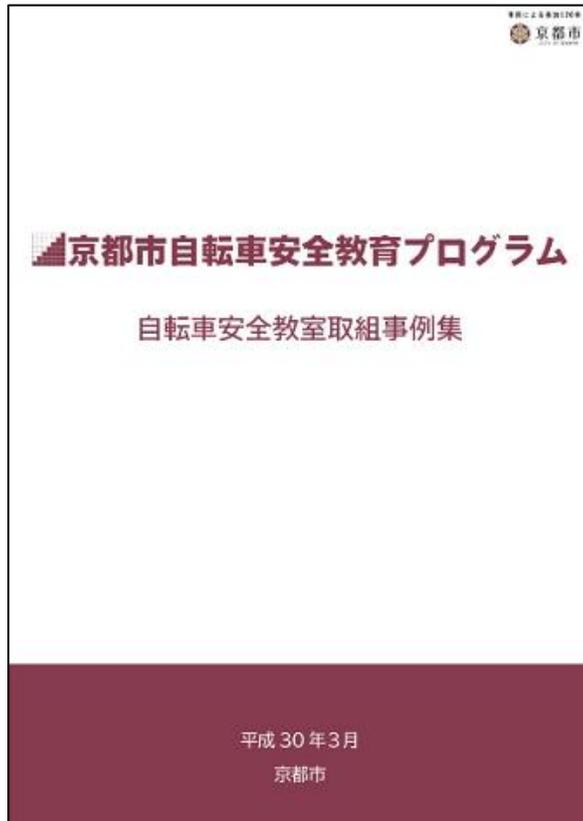
京都市も
構成員として
協議会に参加

※ スケジュール等については、今後の情勢に応じて変更が生じる場合がある。



3. 自転車安全教育をとりまく現状

【本市の動き】 自転車安全教育プログラムについて



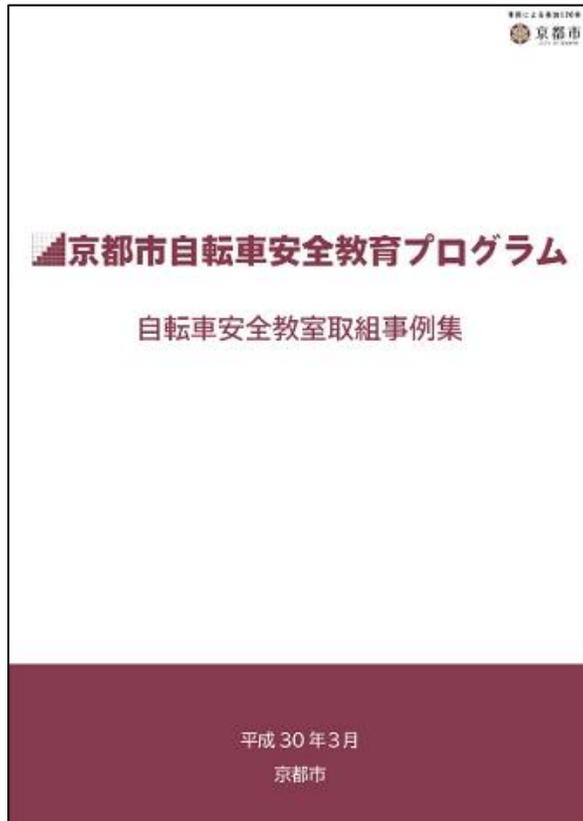
プログラムの評価

- ・ プログラムに示した「ライフステージ別の自転車安全教育のポイント」に基づき、各年代の心身の機能や行動範囲の変化等に
応じた内容で実施
- ・ 子どもから高齢者までの体系的な自転車安全教育として一定の評価
←官民連携協議会でも注目されている
- ・ 実際に京都市内における自転車事故はピーク時から8割近く減少し、
全国に比べても大きく減少していることに貢献していると言える



3. 自転車安全教育をとりまく現状

【本市の動き】



一方で・・・（懸念・課題）

- ・ 世代別の特徴に合わせ、どのような教室が実施されているかを分かりやすくまとめているものの、自転車安全教室の実施機会に偏りがある
- ・ 取組事例紹介で挙げている課題への対応策には触れていない面も
- ・ プログラム策定から6年が経過しているが、これまでの間、プログラムに挙げる教室等の効果検証が行われていない

さらに、

京都市自転車総合計画2025の終期が令和7年末（2025年）

+

安全で快適な自転車利用環境創出ガイドラインが改定されるなど、ハード面にも変化

→新たな計画に反映するため、プログラムの見直し時期



	幼児	小学生	中学生	高校生	大学生	社会人	高齢者	
	●出生 ●保育園 入園 ●幼稚園 入園	●小学校 入学	●中学校 入学	●高校 入学	●大学 入学 ●運転免許取得 ●転入	●運転免許取得・更新 ●転入、就職、結婚 ●子育て	●運転免許更新 ●運転免許返納 ●孫育て	
座学		<p>学校現場で実施</p> <p>安全教育副読本「安全ノート」等を活用した自転車交通安全教育（市教育委員会） 1-⑧</p> <p>「見て分かる！」自転車安全教室 1-2</p> <p>自転車安全教室（事故のリスク・社会的責任編） 1-③</p> <p>スクエアード・ストレイト方式による自転車安全教室 1-4</p>			<p>自動車教習所を活用した自転車安全利用講習 ①教習生向け（右の写真） ②一般市民向け 1-5</p> <p>大学生に対する交通安全教育（府警） 2-②</p> <p>ババママ自転車教室 1-⑥</p> <p>自転車安全利用推進企業による取組 1-⑦</p> <p>自転車用ヘルメットとチャイルドシート使用講習会（京あんしんこども館） 1-⑩</p>			
	実技	<p>小学生を対象とした自転車交通安全教室（市教育委員会・府警） 1-⑨</p> <p>キックバイクを用いた子ども自転車教室 1-①</p> <p>補助輪外し教室</p>			<p>自転車安全利用推進員委嘱講習（京都府） 2-①</p> <p>大学生に対する交通安全教育（府警、再掲） 2-②</p> <p>自転車用ヘルメットとチャイルドシート使用講習会（京あんしんこども館、再掲） 1-⑩</p> <p>シミュレーター等を活用した講習（府警） 2-③</p> <p>①矢羽根を活用した公道における自転車教室 ②自転車を楽しみながら学べる教室 ③サイクリングイベントの企画、支援</p>			
啓発		<p>自転車ルール等啓発冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」（子ども向け） </p> <p>自転車ルール等啓発冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」（一般向け） </p>					3-①	
							<p>自転車マナーアップフェスタin京都 </p>	3-②
							<p>関係団体（市行財政局サービス事業推進室、各区役所、府警、地域団体等）と連携した啓発、各種イベントへのブース出展、市バス車体を活用した広報等 3-③（3-1、3-2、再掲を除くすべての啓発）</p>	
							<p>自転車交通安全 CM コンテスト（KBS 京都、府警）</p> <p>自転車安全利用推進企業による取組（再掲） 1-⑦</p> <p>マスメディアを活用した啓発等（若者向け雑誌への広告掲載等）</p>	
							<p>新たな走行環境の整備を行う地域への啓発</p> <p>レンタサイクル利用者（観光客、外国人）へのルール・マナーの周知徹底</p> <p>外国人向けパンフレット Kyoto Safety Navi（府警）</p>	

現在の
自転車安全教室
（プログラムP.13）



4. 自転車安全教育プログラム 充実の方向性

自転車安全教育検討部会で議論していきたいこと

- 自転車教育をする側、受ける側の「学習のポイント、観点」の共通化
- 現在、不足している部分や更に強化した方が良い部分の精査・対応策の検討
(実施主体、実施手法の掘り起こし含む)
- 自転車安全教育・自転車安全利用に関心のない方へどのように届けることができるのか、方策の模索



5. 京都市の事故状況分析（事故類型：小学生）

H30	事故類型	件数
	出合頭(車両相互)	15
	その他(車両相互)	1
	左折時(車両相互)	1
	正面衝突(車両相互)	1
	総計	18

R1	事故類型	件数
	出合頭(車両相互)	20
	左折時(車両相互)	4
	その他右折時(車両相互)	1
	追越・追抜時(車両相互)	1
	背面通行中(人対車両)	1
	総計	27

R2	事故類型	件数
	出合頭(車両相互)	12
	その他右折時(車両相互)	1
	その他追突(車両相互)	1
	右折直進右折時(車両相互)	1
	左折時(車両相互)	1
	背面通行中(人対車両)	1
	総計	17

R3	事故類型	件数
	出合頭(車両相互)	19
	その他(車両相互)	1
	左折時(車両相互)	1
	正面衝突(車両相互)	1
	総計	22

R4	事故類型	件数
	出合頭(車両相互)	17
	その他右折時(車両相互)	2
	左折時(車両相互)	1
	進行中追突(車両相互)	1
	総計	21

京都府警察提供の事故データから京都市作成
第1当事者、第2当事者の合計数



5. 京都市の事故状況分析（事故類型：中学生）

H30	事故類型	件数
	出合頭(車両相互)	13
	左折時(車両相互)	3
	正面衝突(車両相互)	2
	その他(車両相互)	1
	その他右折時(車両相互)	1
	その他追突(車両相互)	1
	右折直進右折時(車両相互)	1
	駐車車両(運転者不在)(車両単独)	1
	総計	23

R1	事故類型	件数
	出合頭(車両相互)	11
	左折時(車両相互)	3
	追越・追抜時(車両相互)	2
	その他(車両相互)	1
	右折直進右折時(車両相互)	1
	対面通行中(人対車両)	1
	総計	19

R2	事故類型	件数
	出合頭(車両相互)	9
	左折時(車両相互)	3
	すれ違い時(車両相互)	1
	その他(人対車両)	1
	その他右折時(車両相互)	1
	対面通行中(人対車両)	1
	総計	16

R3	事故類型	件数
	出合頭(車両相互)	3
	正面衝突(車両相互)	2
	その他(車両相互)	1
	左折時(車両相互)	1
	追越・追抜時(車両相互)	1
	背面通行中(人対車両)	1
	総計	9

R4	事故類型	件数
	出合頭(車両相互)	10
	左折時(車両相互)	9
	その他右折時(車両相互)	4
	その他(車両相互)	3
	すれ違い時(車両相互)	1
	追越・追抜時(車両相互)	1
	総計	28

5. 京都市の事故状況分析（事故類型：高校生）



H30

事故類型	件数
出合頭(車両相互)	36
左折時(車両相互)	14
その他右折時(車両相互)	7
その他(車両相互)	4
その他(人対車両)	4
右折直進右折時(車両相互)	4
その他追突(車両相互)	1
追越・追抜時(車両相互)	1
路上停止中(人対車両)	1
総計	72

R1

事故類型	件数
出合頭(車両相互)	32
左折時(車両相互)	6
右折直進右折時(車両相互)	5
その他(車両相互)	2
その他右折時(車両相互)	2
正面衝突(車両相互)	2
追越・追抜時(車両相互)	2
その他(人対車両)	1
対面通行中(人対車両)	1
電柱(車両単独)	1
背面通行中(人対車両)	1
路上作業中(人対車両)	1
路上停止中(人対車両)	1
総計	57

R2

事故類型	件数
出合頭(車両相互)	33
左折時(車両相互)	12
その他右折時(車両相互)	7
追越・追抜時(車両相互)	4
背面通行中(人対車両)	3
その他(車両相互)	2
すれ違い時(車両相互)	1
その他(人対車両)	1
右折直進右折時(車両相互)	1
正面衝突(車両相互)	1
対面通行中(人対車両)	1
路上作業中(人対車両)	1
総計	67

R3

事故類型	件数
出合頭(車両相互)	28
左折時(車両相互)	12
その他右折時(車両相互)	6
その他(車両相互)	3
追越・追抜時(車両相互)	2
その他(人対車両)	1
その他追突(車両相互)	1
右折直進右折時(車両相互)	1
横断歩道横断中(人対車両)	1
正面衝突(車両相互)	1
総計	56

R4

事故類型	件数
出合頭(車両相互)	23
左折時(車両相互)	9
その他(車両相互)	3
右折直進右折時(車両相互)	2
正面衝突(車両相互)	2
追越・追抜時(車両相互)	2
すれ違い時(車両相互)	1
その他右折時(車両相互)	1
その他横断中(人対車両)	1
背面通行中(人対車両)	1
総計	45

京都府警察提供の事故データから京都市作成
第1当事者、第2当事者の合計数



ライフステージ別の交通安全教育の目標について

自転車の交通安全教育の目的（前々頁）を達成するためには、自転車利用者に対する体系的かつ継続的な教育の実施が必要。この点、自転車利用者には、幼児から高齢者まで、心身の発達状況、自転車の利用実態等が異なる多様な層が含まれる。

そこで、ライフステージ別の交通安全教育の目標の設定に当たっては、ライフステージごとに

- 心身の発達状況
- 自転車の利用実態
- 警察以外の教育機会を有する者
- 交通事故実態

に応じたものにする事としてどうか。

【ライフステージごとの心身の発達状況、利用実態及び警察以外の教育機会を有する者】

	未就学児	小学生	中学生	高校生	成人	高齢者
心身の発達状況	運動機能 (バランス維持、動きのコントロールと調整)	未熟	一定程度成熟			加齢に伴い変化
	知覚機能 (視覚・聴覚)	未熟	一定程度成熟			加齢に伴い変化
	認知機能 (視覚的情報処理、実行機能、注意と集中、危険に対する感受性)	未熟 (徐々に成長)			一定程度成熟	加齢に伴い変化
	安全態度 (リスクを回避し、安全を優先する考え方、他者への思いやり)	年齢が高くなるほど、社会性、感情、パーソナリティ、道徳性による影響が大きくなる				
	利用実態	年齢が高くなるにつれて、利用範囲の拡大・利用目的の多様化				
	警察以外の教育機会を有する者	○保護者 ○教育機関 ○販売事業者 等			○雇用事業者 ○自治体 ○販売事業者 等	

(抜粋)
 第3回_自転車の交通安全教育の充実化に向けた官民連携協議会資料6 (P.4)

自転車の交通安全教育ガイドラインの策定に向けた検討【ライフステージ別の交通安全教育の目標】



ライフステージ別「交通安全教育の目標」一覧

対象	未就学児	小学生		中学生	高校生	成人	高齢者
		下学年	上学年				
心身の発達状況	運動機能	未熟		一定程度成熟			加齢に伴い変化
	知覚機能	未熟		一定程度成熟			加齢に伴い変化
	認知機能	未熟（徐々に成長）				一定程度成熟	加齢に伴い変化
	安全態度	年齢が高くなるほど、社会性、感情、パーソナリティ、道徳性による影響が大きくなる					
利用実態	年齢が高くなるにつれて、利用範囲の拡大、利用目的の多様化						
事故実態	事故類型別では「出会い頭」が最多 / 法令違反別では「安全運転義務違反」が最多						
	<ul style="list-style-type: none"> ○他の年齢層と比較して、年齢層別自転車乗用中死傷者数は少ない。 ○事故類型別では「出会い頭」事故が多く、法令違反別では安全不確認の割合が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○未就学児に比べ、年齢層別自転車乗用中死傷者数が増加。 ○学年が上がるにつれ「自転車乗車中」における死者・重傷者数の割合が増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事故類型別では「出会い頭」事故が多く、法令違反別では、動静不注視（特に具体的危険性がないと思っ注視を怠るなどの判断誤り）による事故の発生割合が増加。 ○学年が上がるにつれ「自転車乗車中」における死者・重傷者数の割合が増加し、6年生では50%を超える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○小学生に比べ、年齢層別自転車乗用中死傷者数が増加。 ○小学生に比べ、携帯電話使用等（画像注視）に起因する事故が増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ○年齢層別自転車乗用中死傷者数がピークに。 ○対歩行者（相手方）死亡・重傷事故件数が年齢層別で最多に。 ○中学生に比べて、携帯電話使用等（画像注視）に起因する事故が更に増加。 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者と比較して飲酒事故率が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自転車乗用中の死亡事故件数が最多に。 ○転倒や路外逸脱といった車両単独事故が多く、法令違反別ではハンドル操作不達の割合が高い。
別の目標	自転車に安全に乗るための基本的な技能を習得するとともに、自転車に限らず道路空間を安全に通行するための基本的な交通ルールを習得する。	自転車に安全に乗るための技能を習得するとともに、自転車に乗る際の基本的な交通ルールを習得する。	自転車に乗る際の交通ルールを習得するとともに、道路における危険を理解する。	自転車に乗る際の交通ルールを確認するとともに、道路における危険を理解し、これを予測して回避するために必要な能力を習得する。	自転車に乗る際の交通ルールを確認するとともに、交通社会の一員として、自転車を運転する際の社会的責任を理解し、実践する。	自転車に乗る際の交通ルールを確認するとともに、他の年代の模範となる行動を実践し、子どもに対して交通ルールを教える立場にあることを自覚する。	自転車に乗る際の交通ルールを確認するとともに、加齢に伴う身体機能の変化を知り、それに応じた安全な運転を行う。
主な教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車に乗る際のバランス能力 ・「止まる」、「待つ」、「見る」といった安全確認の方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車に乗る際のバランス能力、ブレーキのかけ方 ・「止まる」、「待つ」、「見る」といった安全確認の方法 ・自転車を守るべき信号・標識の意味、通行すべき場所の理解と方法 	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車が守るべき信号・標識の意味、通行すべき場所の理解と方法 ・軽車両であることの確認 ・見通しの悪い交差点等の通行の仕方（死角の理解） ・身の回りの危険箇所の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ながらスマホ」など、前方不注意等につながる行為の危険性 ・通学路の危険箇所の確認 ・歩道、横断歩道又はその付近における歩行者保護の重要性 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ながらスマホ」など、前方不注意等につながる行為の危険性 ・歩道、横断歩道又はその付近における歩行者保護の重要性 ・刑事・民事上の責任 	<ul style="list-style-type: none"> ・飲酒による身体への影響及び飲酒運転の危険性・悪質性 ・歩道、横断歩道又はその付近における歩行者保護の重要性 ・他の模範となるため、自転車の交通ルールを再確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に応じて起こり得る身体機能の変化

（抜粋）
第3回_自転車の交通安全教育の充実化に向けた官民連携協議会資料6（P.14）

評価基準表の二つの形

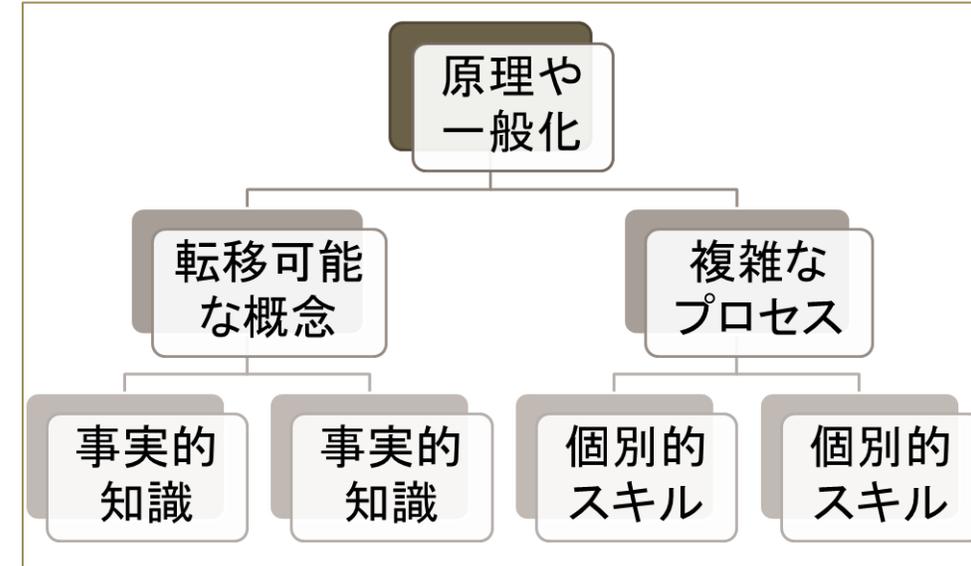
▶ ルーブリック

- ▶ 成功の度合いを示す数段階程度の**尺度**
- ▶ 評点・評語のそれぞれに対応するパフォーマンスの特徴を記した**記述語**
- ▶ 生徒の取り組みや習熟・理解の質の高さを判断するために用いられる(一方で、**知識・技能などの単純な有無に対して用いるのは不適切**)
- ▶ 指導・学習を改善するための示唆も得られる⇒指導・学習の**手引き**としても使われる

▶ チェックリスト

- ▶ 検討・確認すべき事項を列挙したもの
- ▶ ○×で判断されるものであり、**思考力などの質的な高まりを捉えるのには不向き**

「知の構造」



西岡加名恵(2016)「パフォーマンス課題とルーブリックの作り方、ポートフォリオ評価法の進め方」西岡加名恵編著『資質・能力を育てるパフォーマンス評価』明治図書、p.23より抜粋

【課題】教習所の車庫から出発し、路上に出て、安全性に十分配慮しつつ、実際の道路の状況に臨機応変に対応しながら、二条城の周囲を2周しなさい。試験官が補助ブレーキをかけたり、ハンドル補助を行ったりせざるを得ない状況になった場合、試験は中止となります。



評価するなら基準はこんな感じ？



	円滑な運転操作	危険予測(かもしれない運転)
3	車両の周囲の状況にも目をやりつつ、それぞれの操作を非常に円滑に行うことができ、まとまってひとつの動きをなしている。	現実の複雑な状況において、危険を予測し、回避するのに十分な物理的・精神的な余裕をもって運転している。
2	ややステップ・バイ・ステップであるが、それぞれの操作を支障なく円滑に行うことができる。	教習所内では十分な余裕をもって運転でき、現実の複雑な状況においてはやや余裕がないもののある程度対応できる。
1	操作をするのにいちいちレバーやボタンのほうを見る必要がある。	自車しか見えておらず、現実の状況にはあまり臨機応変に対応できない。

長期的ルーブリックの例

(住田町教育委員会(2019)『学習指導要領解説 地域創造学編』p.24)

		第1ステージ		第2ステージ		第3ステージ			第4ステージ		第5ステージ		
		小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	高1	高2	高3	
		年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	高1	高2	高3
		身近な「ひと・もの・こと」との関わりを通して、自分たちの住んでいる場所のよさとして受け止めることができる。	地域の人々の暮らし、生活の知恵や伝統など、住田固有のよさについて理解を深め、それを大切に地域に積極的に関わることができる。	身近な「ひと・もの・こと」について思いや願いを持ち、その実現に向けて、目標を自ら設定して計画を立てたり、手順を考えたりしながら、取り組むことができる。	身近な「ひと・もの・こと」に関わり、自分にとって価値のある見出した課題について、解決の計画を立てて取り組むことができる。	自分が見出した課題に対して根拠のある予想や仮説をもちながら、解決方法を考えたり、自分の考えを絶えず見直し検討したりすることができる。	これからの地域の在り方に願いを持ちながら、抱えている複雑な問題に対して、様々な情報から因果関係を見出し、地域の人々や仲間とともに解決に向けての方向性や取組を検討し、判断することができる。	課題を解決するために、調べた情報や考えなどを関係性や特徴などについて分析して解釈し、より妥当な考えを作り出すことができる。	持続可能な社会づくりの視点から、これからの住田町にとって必要な事柄や対策について具体的に提案し、自分たちの発信後の効果を想定しながらよりよい発信方法を工夫して、地域から広がりのある発信をすることができる。	唯一の正解が得られない具体的な問題や未知の課題についても、目的意識を明確にして自立的によりよく問題を解決しようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることの大切に気付き、着実にやり遂げようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることが日々の生活を充実させていくことにつながることに気付き、社会の発展を支えていこうとする。	
B 社会参画に関する資質・能力 「ひと・もの・こと」等の地域の実情を理解し、身の回りにある課題や問題を捉え、これからの地域の在り方や、よりよい社会づくりについて提案・発信することに関する資質・能力	1 ☆見通す力	【☆見】	自分や集団にとっての課題や問題を発見し、その解決方法を見いだす問題発見力。情報を適切に活用する力。目標の達成に向かって解決の道筋を見通し計画する力。	身近な「ひと・もの・こと」について思いや願いを持ち、その実現に向けて、目標を自ら設定して計画を立てたり、手順を考えたりしながら、取り組むことができる。	身近な「ひと・もの・こと」に関わり、自分にとって価値のある見出した課題について、解決の計画を立てて取り組むことができる。	自分が見出した課題に対して根拠のある予想や仮説をもちながら、解決方法を考えたり、自分の考えを絶えず見直し検討したりすることができる。	これからの地域の在り方に願いを持ちながら、抱えている複雑な問題に対して、様々な情報から因果関係を見出し、地域の人々や仲間とともに解決に向けての方向性や取組を検討し、判断することができる。	課題を解決するために、調べた情報や考えなどを関係性や特徴などについて分析して解釈し、より妥当な考えを作り出すことができる。	持続可能な社会づくりの視点から、これからの住田町にとって必要な事柄や対策について具体的に提案し、自分たちの発信後の効果を想定しながらよりよい発信方法を工夫して、地域から広がりのある発信をすることができる。	唯一の正解が得られない具体的な問題や未知の課題についても、目的意識を明確にして自立的によりよく問題を解決しようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることの大切に気付き、着実にやり遂げようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることが日々の生活を充実させていくことにつながることに気付き、社会の発展を支えていこうとする。	
	2 ☆多面的・多角的に考える力	【☆多】	根拠を明確にしながら様々な見方や考え方で検討する力。批判的思考力。考えや解釈の妥当性を考える力。予測し判断する力。	具体的な遊びや活動体験を通して、心と体を一体的に動かしながらあれこれ思いを巡らして活動に取り組む、自分なりにその価値を意味付けたり価値付けたりすることができる。	課題を解決するために、共通点や差異点を基に比較したり、根拠をもって関係付けたり、条件付けたり、多面的に調べたりしながら、妥当性のあるよりよい考えを見出すことができる。	自分が見出した課題に対して根拠のある予想や仮説をもちながら、解決方法を考えたり、自分の考えを絶えず見直し検討したりすることができる。	これからの地域の在り方に願いを持ちながら、抱えている複雑な問題に対して、様々な情報から因果関係を見出し、地域の人々や仲間とともに解決に向けての方向性や取組を検討し、判断することができる。	課題を解決するために、調べた情報や考えなどを関係性や特徴などについて分析して解釈し、より妥当な考えを作り出すことができる。	持続可能な社会づくりの視点から、これからの住田町にとって必要な事柄や対策について具体的に提案し、自分たちの発信後の効果を想定しながらよりよい発信方法を工夫して、地域から広がりのある発信をすることができる。	唯一の正解が得られない具体的な問題や未知の課題についても、目的意識を明確にして自立的によりよく問題を解決しようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることの大切に気付き、着実にやり遂げようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることが日々の生活を充実させていくことにつながることに気付き、社会の発展を支えていこうとする。	
	3 ☆提案・発信する力	【☆提】	地域への愛着を持ち、よりよい社会づくりに向けた取組を提案する力。解決策や考えたことについて効果的な発信方法を考える力。新しい視点や価値観を生み出す力。	周囲の「ひと・もの・こと」と関わりながら、楽しかったことや感じたことを絵や言葉などで表すことができる。	捉えた町のよさがよりよく伝わるように、様々な方法のまとめ方を学び、発信方法を広げることができる。	よりよい社会づくりに向けた取組について、相手に応じた表現や提案の仕方、発信方法を選択・決定し、取り組むことができる。	周囲の「ひと・もの・こと」に自発的な関心を向け、それを自分自身にとって意味のあるものと感じ取り、積極的に関わろうとしている。	周囲の「ひと・もの・こと」に関して自分が見出した課題について、主体的に学習活動を展開し、自分なりに納得できる答えを探し求めているようとしている。	唯一の正解が得られない具体的な問題や未知の課題についても、目的意識を明確にして自立的によりよく問題を解決しようとする。	持続可能な社会づくりの視点から、これからの住田町にとって必要な事柄や対策について具体的に提案し、自分たちの発信後の効果を想定しながらよりよい発信方法を工夫して、地域から広がりのある発信をすることができる。	唯一の正解が得られない具体的な問題や未知の課題についても、目的意識を明確にして自立的によりよく問題を解決しようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることの大切に気付き、着実にやり遂げようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることが日々の生活を充実させていくことにつながることに気付き、社会の発展を支えていこうとする。
	4 ★好奇心・探究心	【★好】	身の回りや地域の事象に興味関心を持つ態度。もっと知りたいと思う心。知りたいことや解決したいことをみつつけようとする姿勢。	興味・関心のあることだけでなく、自分のやるべきことをしっかりと行い、やり遂げた喜びを味わう経験を積み重ね、自分にとって難しいと思うことでも最後までやり遂げようとする。	周囲の「ひと・もの・こと」に自発的な関心を向け、それを自分自身にとって意味のあるものと感じ取り、積極的に関わろうとしている。	周囲の「ひと・もの・こと」に自発的な関心を向け、それを自分自身とのかかわりで意味付けをしなが、自分で取り組むべき課題を見出そうとしている。	周囲の「ひと・もの・こと」に関して自分が見出した課題について、主体的に学習活動を展開し、自分なりに納得できる答えを探し求めているようとしている。	唯一の正解が得られない具体的な問題や未知の課題についても、目的意識を明確にして自立的によりよく問題を解決しようとする。	持続可能な社会づくりの視点から、これからの住田町にとって必要な事柄や対策について具体的に提案し、自分たちの発信後の効果を想定しながらよりよい発信方法を工夫して、地域から広がりのある発信をすることができる。	唯一の正解が得られない具体的な問題や未知の課題についても、目的意識を明確にして自立的によりよく問題を解決しようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることの大切に気付き、着実にやり遂げようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることの大切に気付き、着実にやり遂げようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることが日々の生活を充実させていくことにつながることに気付き、社会の発展を支えていこうとする。
	5 ★困難を解決しようとする心	【★解】	失敗してもあきらめずに挑戦しようとする心。集団の仲間とともに困難な場面に直結しても粘り強く取り組み、最後までやり遂げようとする姿勢。	興味・関心のあることだけでなく、自分のやるべきことをしっかりと行い、やり遂げた喜びを味わう経験を積み重ね、自分にとって難しいと思うことでも最後までやり遂げようとする。	周囲の「ひと・もの・こと」に自発的な関心を向け、それを自分自身にとって意味のあるものと感じ取り、積極的に関わろうとしている。	周囲の「ひと・もの・こと」に自発的な関心を向け、それを自分自身とのかかわりで意味付けをしなが、自分で取り組むべき課題を見出そうとしている。	周囲の「ひと・もの・こと」に関して自分が見出した課題について、主体的に学習活動を展開し、自分なりに納得できる答えを探し求めているようとしている。	唯一の正解が得られない具体的な問題や未知の課題についても、目的意識を明確にして自立的によりよく問題を解決しようとする。	持続可能な社会づくりの視点から、これからの住田町にとって必要な事柄や対策について具体的に提案し、自分たちの発信後の効果を想定しながらよりよい発信方法を工夫して、地域から広がりのある発信をすることができる。	唯一の正解が得られない具体的な問題や未知の課題についても、目的意識を明確にして自立的によりよく問題を解決しようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることの大切に気付き、着実にやり遂げようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることの大切に気付き、着実にやり遂げようとする。	目標の実現には困難や失敗の体験を乗り越えることが大切であることや、思い通りの結果にならなくとも挑戦し続けることが日々の生活を充実させていくことにつながることに気付き、社会の発展を支えていこうとする。
C 人間関係形成に関する資質・能力 学びを深めたり、目標の達成を行ったりするために、他者と協力することに関する資質・能力	1 ☆伝え合う力	【☆伝】	調べたことや自分の考えを伝える力。視覚的に伝え方を工夫する力。気持ちや感じたことなどを伝える力。双方向的に伝え合う力。	地域の出来事や自分の生活等について、身近な人々と思いや考えを伝え合い、関わりながら楽しむことができ、進んで交流することができる。	丁寧な理由付けしたり、事例をあげたりしながら、自分の考えを伝えることができるとともに、話し手の伝えたいことや自分の聞きたいことの中心を捉えて聞き、考えを伝え合うことができる。	資料を活用するなどして自分の考えが伝わるように表現を工夫したり、互いの立場や意図を明確にしながら伝え合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。	自分の考えが伝わるように、場の状況を判断しながら言葉を選ぶなどの適切な働きかけを行ったり、様々な立場や考え方を尊重しながら他者の考えを受け止めて相互理解を深めることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	
	2 ☆協働する力	【☆協】	目標達成に向かって、他者と協力して活動できる力。議論し合ったり、集団活動を統制したりする力。	友達や身近な人々と楽しく活動する中で、共通の思いや目的を見出し、工夫したり協力したり、問題を解決しようとしたりすることができる。	共に活動する仲間等と、互いの思いや願い、考えを交流しながら、力を合わせて取り組むことができる。	共通の目標に向かって、仲間や関わる人々の中で、自分の立場や果たすべき役割を果たしながら、様々な活動に積極的に活動することができる。	様々な集団での活動において、活動する意義や目標を捉え、互いに協力し励まし合う関係を築き、その中で自分の役割や責任を自覚し集団の一員として活動することができる。	様々な集団での活動において、集団の一員として、よりよい活動や生活に寄与できるように自分自身の役割や責任を自覚し集団の一員として活動することができる。	様々な集団での活動において、集団の一員として、よりよい活動や生活に寄与できるように自分自身の役割や責任を自覚し集団の一員として活動することができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	
	3 ★他者受容	【★受】	多様な他者の考えや価値観、立場を受け入れる態度。相手を尊重したり敬意を抱いたりする心。	身近な人々と一緒に活動する経験を積み重ねることにより、相手にも思いや考えがあることに気付き、仲良く活動することの楽しさや助け合うことの大切さを感じ取っている。	地域の人々や仲間の思いや願い、考えを大切に受け止め、自分の異なる意見や考えについて、その背景にあるものを考えながら大切に捉えている。	地域の人々や仲間の思いや願い、考えを共感的に受け止め、いろいろな見方や考え方を理解し、広い心で異なる意見や立場を尊重しようとしている。	関わる人々について様々な個性や立場を尊重し、広い視野に立つものの見方や考え方を理解し、よりよいものを求めようとする。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の主張を的確に理解し、自分自身を高めながら他者と共に生きることを意味を捉えている。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の主張を的確に理解し、自分自身を高めながら他者と共に生きることを意味を捉えている。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。
D 自律的活動に関する資質・能力 自分自身の置かれている状況や考え、感じていることなどを認識し、それに応じてよりよい方向に調整しながら学びや活動を推進することに関する資質・能力。	1 ☆感じ取る力	【☆感】	自己の現在の姿を見つめる力。考えや発想、思いを自分自身で捉えたり、捉え直したりして、これからの自分の学びや活動をよりよいものに調整しようとする力。	関わる「ひと・もの・こと」と自己を結び付けながら問い直したり、自分の生活とのつながりを見出したしたりして自らの生活を豊かにしようすることができる。	課題の解決に向けた取組の進捗状況を振り返り、自分の現状を認識してこれからの学びや活動に必要なことを捉えることができる。	課題の解決に向けた取組の進捗状況を振り返り、自分の考えの妥当性を検討したりして、自分にとってよりよい達成を目指すことができる。	様々な観点から課題の解決や目標の実現状況を捉え、物事の本質を見極めながら、よりよい自己実現に向けて探究することができる。	様々な観点から課題の解決や目標の実現状況を捉え、物事の本質を見極めながら、よりよい自己実現に向けて探究することができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	
	2 ☆創出する力	【☆創】	出会う「ひと・もの・こと」に触れて面白さや楽しさ、よさを感じ、自分なりに表現する力。新しい表現の仕方を生み出したる力。	自分の感性や気持ちを表すことを楽しんだり、表現を通して対象との関係を作り上げて楽しんだりすることができる。	感じたことや考えたことをもとに、自分の感性や創造性を発揮しながら、発想したり創意工夫したりすることを楽しむことができる。	目的や条件等を踏まえて、感じたことや考えたことをもとに自分の感性や創造性を発揮しながら、発想したり創意工夫したりすることができる。	感じたことや考えたことをもとに、新たな発想やイメージを広げたり生み出したるなど構想を練り上げて、創造的に表すことができる。	目的や意図に応じて自分の考えを表現する方法を創意工夫し、豊かな感性を育みながら創造的に表現することができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	
	3 ★自己肯定感	【★肯】	学びの過程や活動を省察したり、最後までやり遂げた達成感を味わったりしながら自分のよさを捉える心。自分の可能性を前向きに受け止め、より高いもの・よりよいものを目指して取り組もうとする態度。	自分でできるようになったことや生活の中での自分の役割が増えたことを喜び、前向きに過ごそうとする気持ちを持っている。	自分のことは自分で行い、よく考え判断して行動し、自分のよさや可能性に気付き、よい所を伸ばそうとする。	目標を持ち、自分のよさや持ち味を発揮しながら、その実現に向かって努力し、自分にとって学ぶことの意味や価値を見出し、自分の生き方につなげて考えようとする。	自分を見つめ、より高い目標に向かって着実にやりぬく強い意志を持って取り組み、学習の成果から達成感や自信を持ち、自分のよさや可能性に気付き、自分の人生や将来、職業を考えていこうとする。	これまでの学習を通して自分に身に付いた力を客観的に見つめ、自信を深めるとともに、将来の人生設計に生かしていくために必要な	これまでの学習を通して自分に身に付いた力を客観的に見つめ、自信を深めるとともに、将来の人生設計に生かしていくために必要な	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。	自分の思いや意見を適切に伝え、他者の意志等を的確に理解することができる。様々な立場を理解し、異年齢の人や異性等、多様な他者と場に応じたコミュニケーションを図ることができる。

3-2 ライフステージ別の自転車安全教育の主なポイント一覧

子どもからお年寄りまで、ライフステージごとに、自転車を安全に利用するためのカリキュラムを作成するにあたり、教える主なポイントは、下表のとおり
 教えるポイントの詳細については、「ライフステージ別の自転車安全教育のポイント（14～16ページ）」に紹介
 なお、自転車はクルマの仲間であり、車道の左側通行が基本であることなど、自転車の基本的なルール等については、本市作成の冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」において、分かりやすく紹介
 （39～40ページ、55～62ページ参照）

	幼児	小学生		中学生	高校生	大学生	社会人	高齢者	
		低学年	高学年						
	親と乗車	親と一緒に運転	ひとりで運転	行動範囲の拡大	通学での利用		通勤等での利用 子どもと乗車	加齢に応じた運転	
	自転車デビュー	歩道通行も可能		車道通行が原則			歩道通行も可能		
	親が子どもの自転車の安全利用の責任を持つ								
知る				知る					
わかる	覚える	覚える・わかる		わかって実践する		わかって実践し、他者にも伝える			
	自転車の運転技術の向上			危険の予測・回避		指導者としての視点			
	交通ルールの基本を覚える			事故のリスクの理解・社会的責任の認識		保護者としての視点	加齢に応じた運転		
運動・認識能力	<ul style="list-style-type: none"> ぶつからないようにするなど、他者を思いやる気持ちを養う 乗車するための基本となる能力（動作）を身につける 		<ul style="list-style-type: none"> 自転車の安全な乗り方を身につける 	<ul style="list-style-type: none"> 危険を予測し、回避することができる 		<ul style="list-style-type: none"> 子ども乗せ自転車の特性を理解して運転することができる 加齢による運動・認知能力の低下を考慮した運転ができる 			
	<ul style="list-style-type: none"> 簡単な交通ルールを知る 		<ul style="list-style-type: none"> 交通ルールの基本を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 交通標識を知る 	<ul style="list-style-type: none"> 自転車にも罰則があることを知る（自転車運転者講習制度等） 				
交通ルール・マナー	<ul style="list-style-type: none"> 「自転車はクルマの仲間」、「車道は左側通行」という認識を持つ 								
	<ul style="list-style-type: none"> 身近な危険な箇所を知る 		<ul style="list-style-type: none"> 車道に必要な走行知識を習得する 何が危ないのか、自転車事故について知る 	<ul style="list-style-type: none"> 歩道通行は例外であることを認識し、車道を通行する 自転車事故の社会的責任を知る 危険な乗り方をしない 		<ul style="list-style-type: none"> 正しい交通ルールを子ども等他者にも教えることができる 子どもの自転車の安全利用の責任を持つ 			
自転車の楽しさ	<ul style="list-style-type: none"> 自転車に乗る楽しさ 								
	<ul style="list-style-type: none"> まちなかをサイクリング 			<ul style="list-style-type: none"> 趣味としての自転車 					

知識・技能の質的深まりを意識
 ルーブリックにするなら、

ルーブリック向きの要素